

# うえだ 環境市民会議 News

第29号  
ニュース

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、どのプロジェクトチームにも参加できます。参加ご希望の方は、生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

この情報誌は自治センター、公民館、図書館、情報ライブラリー、市生活環境課の窓口で配布しております。

発行：うえだ環境市民会議

〒386-8601 上田市大手一丁目11-16

上田市生活環境課内

電話：0268-23-5120

FAX：0268-22-4127

E-mail seikan@city.ueda.nagano.jp

## 第18回うえだ環境市民会議が開催されます

太陽光やバイオマスなどの新エネルギーについて講演して頂きますので、ぜひみなさんご参加ください。講演終了後には環境活動認定証授与式とうえだ環境市民会議総会を行います。

日時：6月13日(土) 13:30～15:30

会場：上田創造館 2階コミュニティホール

内容：① 環境講演会 13:30～15:00

「新エネルギーの今後について」

講師：平島安人氏

(長野県地球温暖化防止活動推進員)

② 環境活動認定証授与式

③ 総会

参加費：無料

お問合せ：上田市生活環境課 tel. 23-5120

## 環境活動認定証を差し上げます

柴崎茂利

環境活動は一人の活動では効果が極めて小さかったり、効果が上がらなったり、なかなか目に見える形にはなりません。一方たっ

## ▼ 環境活動認定証

《見本》

認定番号：\_\_\_\_\_

環境活動認定証

【環境大学卒業】

ポイントが  
100ポイント  
以上になると環  
境大学卒業です。

\_\_\_\_\_ 殿

あなたは、今日までの環境活動において、

あなたの大切な時間を使い、十分に環境学習をされ  
理解されたと判断します。

これからもあなたがより一層環境活動に関わる事を期待して  
ここに本認定証を授与し、あなたの環境活動を賞します。

2009年3月14日

上田市うえだ環境市民会議

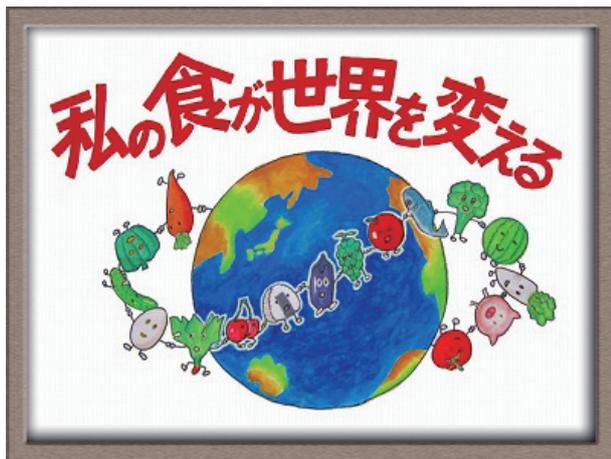
た一人でも環境ルールを無視したり違反をすると、環境への悪影響が広い地域に及び、時には多くの住民の健康にも害を及ぼします。昨今これらの影響は地球規模で大きくなっています。私たちうえだ環境市民会議は、より多くの方が「環境」への関心を持ち行動することを期待しています。

私たちうえだ環境市民会議が活動している

環境への取り組みに賛同されて、自然環境保護活動や地域環境保全活動等の地球を守る活動に参加したり、日常生活の中で環境に優しい行動や省エネに努めている等々を継続的にやっている個人に対して、環境への意識の高さに敬意を表して「環境活動認定証」を差し上げる事にしました。しかし、本認定証には、いかなる権限も権利も義務も負荷されていません。一種の「遊び心」と捉えてください。詳細なルールについては、当市民会議の事務局である上田市生活環境課にお尋ねください

## 「食」をテーマにした紙芝居

環境紙芝居 前田光俊



近年、食品偽装問題や毒物混入事件がニュースに流れ、輸入食料の高騰に原油高が拍車をかけて、「口に入れるもの」への関心がいやが上にも高まっています。私たちのプロジェクト・チームは、この「食と環境の問題」を関連させて勉強し、2年かけて環境紙芝居 Part 2 『私の食が世界を変える』を作りました。

食べ残して捨てられたハンバーグから話が始まり、食料自給率、バーチャルウォーター、フードマイレージ、輸入食品の安全性等の問題を分かりやすく絵解きし、「地域の食材を使う地産地消を」と結んだのがこの紙芝居です。上演時間は20分ほどです。多くの

人に見てほしいと思い、どこへでも出前して Part 1 『お米のはなし』も併せて上演するつもりです。遠慮なく声を掛けてください。

昨年2人の仲間が加わって6人体制となりましたので、さらに進化した Part 3 の紙芝居が作れると思います。乞うご期待！また興味のある方は、一緒に紙芝居づくりをしませんか？みなさんの参加をお待ちしています。

## 間違っていたかも知れない農薬空中散布

竹内秀夫

4月19日に「こどもの未来と健康を考える会」が主催した「農薬空中散布について考える」講演会が創造館で開かれた。講演会の中で私が特に注目したのは、広島大中根教授のマツ枯れのメカニズムだ。今まで私たちはマダラカミキリがマツノザイセンチュウを運びマツノザイセンチュウがマツを枯らすから「農薬空中散布」をする、という説明を信じていたが、事実はどうも違っているようだ。

中根教授の調査では野外の約2万本のマツを調べたところ約30%がマダラカミキリの後食を受けていたが、枯死マツはわずか58本、0.31%であったという。そして、マダラカミキリの後食を受けたマツの枯死率と後食を受けていないマツの枯死率に差がなかったそうだ。マツを枯らしているのは、なんとNO<sub>2</sub>や光化学スモッグなどの大気汚染が主因であり、私たちが思い込まされていたマツノザイセンチュウではないということだ。

従って、「農薬空中散布」は無意味であり、その費用で弱ったマツの周囲に竹炭等を入れて再生した方が、余程効果があるそうだ。そうすれば、「農薬空中散布」による健康被害者も、森林の所有者も助かり、行政としても環境に配慮した里山育成が図れ、八方がまるく納まる。希望が持てる未来への第一歩を踏み出すときがきたようだ。